

標準委員会 システム安全専門部会 統合的安全性向上分科会
第 32 回統合的安全性向上分科会議事録

1. 日 時 2021 年 7 月 12 日 (月) 13:45～16:35

2. 場 所 WebEX による Web 会議

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 成宮主査 (原安進), 松本副主査 (MRI), 倉本幹事 (NEL),
石崎委員 (東電 HD) (途中から出席), 鈴木委員 (原安進),
曾根田委員 (日立 GE), 高橋委員 (MHI), 櫻井 (原電; 中川委員代理),
藤井委員 (関電), 村上委員 (東京大), 山田委員 (中部電),
与能本委員 (JAEA) (12 名)

(常時参加者) 疇津 (九州電), 新谷 (北陸電), 岩谷 (電中研), 大家 (NEL),
亀山・松田 (電源開発), 関 (原電エンジ), 田門・平野 (関電),
遠山・長谷川・畑・向中野 (北海道電), 西紋 (四国電), 沼田 (東電 HD),
山本 (原燃), 吉岡 (中国電) (17 名)

(傍聴者) なし

4. 配布資料

S3SC32-1 第 31 回統合的安全性向上分科会議事録 (案)

S3SC32-2 人事について

S3SC32-3-1 IRIDM 標準英訳版作成の進め方

S3SC32-3-2 IRIDM 標準英訳版作業ワークシート

S3SC32-3-3 IRIDM 標準英訳版目次 (2021/7/12 時点)

S3SC32-3-4 IRIDM 標準英訳版 共有すべき用語・表現

S3SC32-4-1 PSR+指針改定検討の進め方

S3SC32-4-2 PSR+改定標準 規定事項(1 次案)の検討

S3SC32-4-3 PSR+改定標準 附属書(参考)・解説の検討

S3SC32-4-4 PSR+改定標準案 (2021/7/12 版)

S3SC32-5 統合的安全性向上分科会検討スケジュール

参考資料:

S3SC32-参考 1 統合的安全性向上分科会委員名簿

S3SC32-参考 2 IRIDM 標準講習会 開催案内 (Webex システムによる開催)

S3SC32-参考 3 「NRA 継続的な安全性向上に関する検討チーム」での IRIDM 標準
に関する議論状況

5. 議事内容

倉本幹事より、議事に先立ち、開始時点で委員 15 名中 11 名が出席しており、分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。

(1) 資料確認、前回議事録の確認 (S3SC31-1)

議事次第に基づき、配布資料の確認を行った。

倉本幹事より、資料 S3SC32-1 を用いて、第 31 回分科会議事録(案)の確認を行った。

特に、第 31 回分科会議事録(案)に対するコメントはなく、確定議事録とすることが承認された。

(2) 人事について (S3SC32-2, S3SC32-参考 1)

倉本幹事より、資料 S3SC32-2 を用いて、以下に示すと通りの委員の退任、常時参加者の登録解除が報告され、確認を得た。(敬称略)

・委員の退任【報告事項】

佐々木 泰裕 (関西電力)

・常時参加者の登録解除【報告事項】

白井 一志 (電力中央研究所)

福井 敏洋 (九州電力)

藤崎 恭史 (関西電力)

下岡 正和 (電源開発)

また、以下に示すと通りの委員常時参加者の登録が報告され、承認された。

・常時参加者の登録【承認事項】

岩谷 泰広 (電力中央研究所)

疇津 正俊 (九州電力)

亀山 伸彦 (電源開発)

大家 慶 (原子力エンジニアリング)

(3) IRIDM 標準英訳版検討に関する議論 (S3SC32-3-1～S3SC32-3-4)

倉本幹事より、資料 S3SC32-3-1～S3SC32-3-4 を用いて、IRIDM 標準英訳版検討状況につき説明があり、審議を行った。

主な説明、議論は、以下のとおり。

<本体 箇条 1,2,3>

・英訳化作業(第 1 次案)を完了した。

・緑字の部分は、分担作業の取り纏め後に、前回議論内容を反映したものである。

<本体 箇条 4,5>

・4 章、5 章とも、前回の分科会までで、確認・議論が完了している。

- ・青字の部分が前回議論を反映したものである。

＜本体 箇条 6＞

- ・前回の分科会までで、確認・議論が完了している。
- ・緑字の部分が前回議論を反映したものである。

Q: 前回分科会において、自主的な安全性向上活動を **voluntary activities** としているが、海外の人の理解が困難な部分があるため、注釈を加えることで対応していくとしたが、現段階でまだその対応はされていない。日英の単語の言い換えだけでは説明がつかないことが多く、丁寧な注釈、説明が必要である。

A: 御指摘の注釈を付加していく作業を含め、これまでの分科会のコメント反映状況や、英訳の横並びの確認は必要と考えるが、現段階ではそれは全体的に実施できていない。こういった作業、検討については、今後少人数作業で集中的に行っていくことを考えている。その作業結果を各検討チームにフィードバックして最終化を行っていくという進め方とする。

＜本体 7.1＞

- ・英訳化作業（第1次案）を完了した。

＜本体 7.2＞

- ・前回から大きな変更はなし。

＜本体 7.3＞

- ・前回から大きな変更はなし。
- ・前回の議論内容が一部反映（Appendix を Annex と変更する等）されていないため、反映していく。

＜本体 7.4＞

- ・前回から大きな変更はなし。

Q: 例えば、7.4.3d)の備考に、安全確保活動を **the safety related activities** とすることが挙げられているが、この内容は全体的に反映されているのか。

A: 全体的な反映とその確認はできていない。今後、少人数作業によって反映、確認をしていく。

＜本体 7.5～7.7＞

- ・前回から大きな変更はなし。

＜本体 箇条 8＞

- ・英訳化作業（第1次案）を完了した。

＜附属書 A＞

- ・英訳化作業（第1次案）を完了した。

＜附属書 B～G＞

- ・前回から大きな変更はなし。

＜附属書 H～J＞

- ・英訳化作業（第1次案）を完了した。
- ・特に、周知、議論したい内容はない。

<附属書 K～V>

- ・前回から大きな変更はなし。

<附属書 W,X>

- ・“リスクアセスメント”や“リスク評価”といった“リスク”に関連する注釈を追記した。

<解説 1～8>

- ・英訳化作業（第1次案）を完了した。

<解説 9～14>

- ・解説 9(1), (2)の“リスク情報”は、ここでは“PRA で得られる情報の活用”の意味であり、注釈を追記していく。

C: “リスク情報”については、「3. 用語、定義及び略語」において明確に定義しており、解説 9 のこの箇所での“リスク情報”が限定的な意味で使われているという注釈を加えるのみの対応でよいと考える。

- ・解説 10, 11 は、英訳化作業（第1次案）を完了した。
- ・解説 12 において、安全性向上活動における取り組みが“自主的”であることが、もう少しはっきりと分かる英訳になるように工夫していく。

<解説 15～17>

- ・前回から大きな変更はなし。

<解説 18,19>

- ・英訳化作業（第1次案）を完了した。

C: 解説 18 の **pending issue** は日本国内の懸案の内容であり、英訳標準を読む海外の技術者が深く理解できないかもしれない。海外の技術者からの質疑があれば、回答していけばよく、日本国内の懸案のバックグラウンドまで注釈や解説を加える必要まではないと思われ、英訳内容について今後検討する。

以上の説明、議論をふまえ、倉本幹事より、本体、附属書、解説とも、第1次案としてとりあえずのまとめが完了し、今後、英訳版として必要な注釈の検討・追記、図表における英訳化作業の実施、及び全体的な用語の統一を図っていく段階に移っていくことの説明があった。

これらについては、少人数作業により少し時間をかけて実施することとし、その作業結果を各検討チームにフィードバックして最終化を行っていくという進め方につき説明があった。

Q: S3SC32-3-4 では、学会標準は **Academic standard** になっているが、**AESJ standard**

でよいと思う。

A: ここでは、“学会標準”は“原子力学会標準”のこのみを表しており、AESJ standard でよいと思うので、修正する。他の箇所があれば、内容を確認して対処をしていく。

(4) PSR+指針改定に関する議論 (S3SC32-4-1～S3SC32-4-5, S3SC32-参考 2, S3SC32-参考 3)

成宮主査、倉本幹事より、S3SC32-参考 2 を用いて、2020 年に引き続き、7 月 28 日に開催予定の IRIDM 標準講習会の紹介があった。

また、倉本幹事より、S3SC32-参考 3 を用いて、NRA の継続的な安全性向上に関する検討チームの第 1 2 回会合で、継続的な安全性向上のために IRIDM 標準を利用していくべく、IRIDM 標準が取り上げられていることの紹介があった。

倉本幹事より、資料 S3SC32-4-1～S3SC32-4-5 を用いて、PSR+指針改定検討の進め方、及び標準規定事項（1 次案）、及び附属書（参考）・解説の検討状況の説明があり、審議を行った。

倉本幹事より、前回までの議論を反映した資料 S3SC32-4-1 の PSR+指針改定検討の進め方に基づき、「表 1. PSR+標準改定 標準本体の構成（案）」を修正したこと、構成（案）に基づき、検討チームで PSR+改定標準規定事項（1 次案）を資料 S3SC32-4-2 としてワークシート形式に取り纏めたこと、PSR+改定標準 附属書（参考）・解説の目次案を資料 S3SC32-4-3 に取り纏めたことの説明があった。さらに、現時点の成果を資料 S3SC32-4-4 として、標準案の形に取りまとめたことの説明があった。

また、今後は、資料 S3SC32-4-1 の「1. 改定検討の作業進め方（案）の②～④」の対応につき、検討チームや少人数作業で実施して、その成果を分科会で審議を行っていくという進め方が説明された。

標準案に対して、及び今後の検討の進め方に対して、主な議論は、以下のとおり。

また、今回の標準 1 次案に対して、8/13（金）を期限として分科会において確認いただきコメントを受け付けることになった。

Q: 「10 品質保証」における“QMS”の説明が必要と思われる。また、“社内 QMS “の”社内 “という言葉は必要か。

A: 他の標準の「品質保証」の要求事項において、“社内 QMS”という表記があり、それに準じた表記としたものである。御指摘の通り、“JAC4111 に従う社内 QMS に沿った品質保証を行う”という表現は、“JAC4111 に従って品質保証を行う”として“QMS”という文言は削除することで対応する。

Q: 「10 品質保証」において、“品質保証を行う”の主語がわかりづらい。

A: 何に対して品詞保証を行うのかという説明において途中に区切れがあり、文章がわかりにくいのが、“品質保証を行う”のは、冒頭の事業者である。現状案はこのままとする

が、よい修正文案があれば提案頂きたい。

Q：今後の検討の進め方において、SSG-25 に関する IAEA への質問では、何を目的に、何を得たいのかを明確にして、工夫して質問する必要がある。

A：拝承。質問内容については、小人数の集まりで検討し、分科会にも質問内容を諮っていくようにする。

Q：解説、附属書の追加は、技術レポートの内容を編集して作成するのか。

A：基本的にはそうである。ただし、技術レポートに記載がなく、新たに文章を作成するものもあり、その内容は、分科会に諮っていくようにする。

(5) 今後の予定（分科会検討スケジュールの確認）(S3SC32-5)

倉本幹事より、資料 S3SC32-5 を用いて、分科会の今後の予定の説明があり、確認を行った。

次回分科会（第 33 回）については、以下を候補日（いずれも 13:30～17:00 予定）として、別途調整を行うこととした。

9 月 3 日（金）

9 月 6 日（月）

以 上